

1. 研究課題名：奄美・琉球における森林地帯の絶滅危惧種・
生物多様性保全に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：
正木 隆（国立研究開発法人森林総合研究所）



3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

世界自然遺産候補地への申請が予定されている奄美・琉球は、固有種の多くが絶滅危惧種であり、それらの保全は世界自然遺産登録の条件として、そして生物多様性国家戦略上も重要である。ヤンバルクイナなど一部の絶滅危惧種はマングース防除対策の進展により回復傾向にあるものの、森林施業、外来種植林、林道建設など人の影響を受けて生じた二次的自然への評価は定まっていない。そこで本研究では、世界自然遺産の OUV（優れた価値）とされる種の中でも、高齢林・老齢林や溪流環境に依存する絶滅危惧種、中でも大型樹洞に依存するヤンバルテナガコガネや、分布域が非常に限定されているオキナワトゲネズミ等を対象に、効率的なモニタリング手法の開発を行うとともに、二次的自然のハビタットとしての評価を行う。また、地域の絶滅危惧種の統合的な保全のための最適なモニタリング計画を設計し、エコツーリズム等を含む多様な林業活動を重ね合わせた順応的管理手法を開発する。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 施業履歴や林齢が絶滅危惧植物を含む相互作用系に与える影響の解明
(国立研究開発法人森林総合研究所)
- ② 絶滅危惧哺乳類の絶滅を回避するためのモニタリング手法の開発
(国立研究開発法人森林総合研究所)
- ③ 奄美・琉球の常緑広葉樹二次林における樹木の生産力と生態学的機能評価
(国立大学法人琉球大学)
- ④ 溪流の環境 DNA を用いた森林伐採の影響解明とモニタリング手法の開発
(国立大学法人東京農工大学)
- ⑤ 林業と生物多様性の共存のための順応的管理に関する研究
(国立大学法人長崎大学)

6. 研究のイメージ

奄美・琉球における森林地帯の絶滅危惧種・生物多様性保全に関する研究

